

# 教育実習における評価票の検討

—実習校からの評価と学生の自己評価の比較を踏まえて—

## A Study on the Evaluation Vote about Teaching Practice

—Based on the comparison of self-evaluation of the training school evaluation and student—

佐藤典子\* 佐久間邦友\*

Noriko SATO and Kunitomo SAKUMA

The purpose of this research, first, the student teaching value from the practice school and own value by the student verify whether you agree as well as compare board of education and a Koriyama women's university and college : KGC with an evaluation vote, consider the state of the future's student teaching evaluation vote and propose.

Second, the quality I should have as a teacher through comparison and consideration, the item the ability is striking and is satisfying and the item lacking with the evaluation vote of board of education and a KGC are grasped and the angle on the future's guidance in a KGC is made clear.

1.The music, the family of fine arts and the student of a homemaking course were parallel with the evaluation item of “class management and student guidance” and “the office work ability” in the value from the practice school and own value of the student. It'll be important what kind of way I can thrust at “Tsutomu who touches” and “communication ability” with from now on, and a further device of a teaching method is desired.

2. It was proposed about a student teaching evaluation vote.

Key Words : teaching Practice, evaluation vote, self-evaluation, Practicing leadership

キーワード : 教育実習 (現場実習), 評価票, 自己評価, 実践的指導力

## 研究の背景と目的

教育実習は、教職課程を履修した学生が大学で学んだ理論や知識・技能を実際の学校現場で児童・生徒を対象に実践できる貴重な機会であり、教員養成の中核的な教育活動であるといえる。学生の身分ではあるが教師として教壇に立つことで、その使命と責任の重さを実感することができ、実習後に教師になることへの意欲をより高めた者がいる。しかし、その一方で教師

---

\* 人間生活学科

以外の道に進路変更をする学生もいる。昨今の教員採用選考の倍率が高さ、現役合格の難しさ、実習中に学ぶ教師の仕事の広範囲な事項、多忙さ、教育現場の様々な今日の課題を目の当たりにして、自信を失ってしまい進路変更をしたと推察されるが、教育実習を終えた学生は皆、実習前に比べて何らかの学びを得て成長したように見受けられる。

この学びは、たとえ教職につかなくても学生にとってはかけがえのない体験であり、学生のその後の人生に、最良な経験をもたらすと考える。そのため学生一人ひとりが、教師として求められる資質・能力を高め、教師になりたいという目標を達成するためには、大学側の的確な指導が必要であり、それを行うためには、教育実習における評価の在り方が重要である。

本稿で述べる評価の在り方とは、単位認定に係る授業科目としての評価ではなく、教育実習の個人評価票に着目する。これは、大学が作成した個人評価票の項目に基づき実習校側が記入するものであるが、評価者の違いによるばらつきがなく、学生の良いところと課題を抽出できるような客観的評価票を目指し、従来の書式をよりよく改変していくことが大切であろう。

以上のような背景を踏まえ、本稿では、「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」の担当者として、次の3点を目的として研究を行った。

1. 実習校からの教育実習評価と学生による自己評価が合致しているかを検証するとともに、実習校からの教育実習評価と学生による自己評価が合致しない事項を明らかにする。
2. 本学の個人評価表と行政機関や他大学の教育実習に関する評価票との比較を行い、今後の教育実習評価表の在り方を検討する。
3. 1と2の比較・検討を通して、教員として備えるべき資質・能力のうち充足している項目と不足している項目を把握し、今後の本学の教育実習評価表に関して提案し、今後の指導上の観点を明確にする。

## 方 法

### 1. 「教育実習個人評価表」<sup>注1</sup>についての実習校からの評価と自己評価の比較

実習校に依頼した教育実習個人評価表と同じ項目と4段階評価(A～B～C～D)で、学生に自己評価をしてもらい、Aを4点、Bを3点、Cを2点、Dを1点と得点化して集計し、実習校の評価と学生の自己評価にズレがないかを比較した。

### 2. 学生による教育実習自己評価

#### (1) 対象

平成28年度教育実習生14名(大学生5名、短大生9名)を調査対象とした。

平成28年度栄養教育実習生9名を調査対象とした。

(2) 調査時期

平成28年9月の教職実践演習，教育実習Ⅰ（事後指導）の時間に実施した。

(3) 調査内容

本学が実習校に依頼している評価表をもとに自己評価表を作成し記述させた。紙面の都合で3教科の評価表を図1に示した。栄養教諭の書式も3教科と統一したが，評価項目については，3教科は8項目，栄養教諭は6項目であった。

また，自己評価表の他に，リフレクションシートを配布し，次の11項目（栄養教諭は9項目）に対する回答を自由記述方式で書かせた。本稿では，6）と7）について，考察することとする（表1）。

(4) 解析方法

エクセルによる単純集計およびクロス集計，各評価項目の平均値の比較を行った。自由記述については，実習校の記載者と学生がそれぞれどのような視点で記述しているかを分析した。

表1 リフレクションシート質問項目

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1) 実習中に管理者や指導教員から注意や指摘がありましたか。</li><li>2) 実習中に一番困ったことは何でしたか。</li><li>3) 実習前にやっておけばよかったと感じたことは何ですか。</li><li>4) 実習前にやっておいてよかったと感じたことは何ですか。</li><li>5) 自分の経験を踏まえて，これから実習を行う人にアドバイスはありますか</li><li>6) 教育実習を100点満点で自己評価すると何点ですか。また，その理由も教えてください。</li><li>7) 教職に就くことへの意欲は実習前と比べて高まりましたか。</li><li>8) 教育実習日誌全体の分量と記述内容は適切でしたか。</li><li>9) 教育実習日誌の授業評価シートは記入しやすかったですか。（栄養教諭除く）</li><li>10) 教育実習日誌の授業評価シートの自己評価と指導教員の評価は一致していましたか。<br/>（栄養教諭除く）</li><li>11) この実習をとおして，一番学んだことはどのようなことですか。</li></ol> |
|--|

## 教育実習における評価票の検討

### I. 1～8の評価項目について、「自己評価」をしましょう

- ①評価は、A 優れている～B 普通～C やや劣っている～D 劣っているの4段階とする。  
 ②所見欄には、コメントを記述しましょう。

教育実習事項別評価			
事項別評価記入要領		A: 優れている。 B: 普通である。 C: やや劣っている。 D: 劣っている。	
下記の評価項目ごとに該当するところに○印をつけてください。 なお、できるだけ所見欄に文章記述をお願いいたします。			
評価項目	主な着眼点	評価	所見
1 生徒との触れあい	生徒との相互理解を深めるため、親しく話したり、生徒の中にとけこもうとしたか。	A B C D	
2 教職への関心	職場・地域などの教育関連に積極的な関心を示し、自主的・協力的に教育活動を遂めようとしたか。	A B C D	
3 自己表現力	自分の考えや態度を、ことば・文字・その他の表現手段でどれだけ明確にわかりやすく表現しようとしたか。	A B C D	
4 教材研究	教材内容について十分な理解をもっているか。教材の選択、作成、利用のしなは適切であったか。	A B C D	
5 教科指導の技術	授業案の立てかた、発問や説明など授業展開の工夫、生徒への対応のしなは適切であったか。	A B C D	
6 学級経営・生徒指導	個々の生徒や学級の実態の把握に努め、生徒や学級の諸活動に参加して、効果的な指導ができたか。	A B C D	
7 事務能力	学級経営上の事務処理などがうまくできたか。実習記録、その他の書類などを的確に記述し、期限内に提出したか。	A B C D	
8 実習態度	礼儀正しく、敬意をもって仕事に従事したか。実習中、指導員などの指導・助言にたいし、どれだけ自己改善に努めたか。	A B C D	

### II. 総合評価をしましょう

総合所見欄には、教員として備える資質や能力・技能のうち、自分不足していることや今後に向けて努力していきたいと思う課題を記述しましょう。

総合評価		A B C D			
総合評価記入要領	総合評価	A	B	C	D
総合評価記入要領 全体的な評価について該当するところに○印をつけてください。	A = 教育実習生として優れている。 B = 普通である。 C = 劣っている。 D = 教職に適していない。				
総合所見					

図1：自己評価表（3教科の学生向け）

### 3. 本学の個人評価表と行政機関や他大学の教育実習に関する評価票との比較

本学の個人評価表と行政機関や他大学の教育実習に関する評価票との比較については、都道府県教育委員会や教職課程を有する大学のホームページ検索を含むシラバス検索を用いて他大学の評価票の情報を収集するとともに、行政機関で開示している様式やひな型などを比較検討した。

また、先行研究論文や他大学の教育実習に関する指針などを参照し、今後の評価票を提案するための資料としたところである。

## 結果および考察

### 1. 「教育実習個人評価表」についての実習校からの評価と自己評価の比較

実習校からの評価と学生の自己評価の平均値<sup>注2</sup>を比較した結果を表2と表3に示した。また、表4には、3教科（家庭・美・音）の「自己表現力」について、実習校からの評価と学生自己評価の一致具合について示した。表5には3教科と栄養教諭両方の「総合評価」について、実習校からの評価と学生自己評価の一致具合について示した。

教育実習における評価票の検討

(1) それぞれの評価項目について

3教科(家庭・美・音)の学生は、「学級経営・生徒指導(平均3.2)」と「事務能力(3.6)」の評価項目は実習校からの評価と合致していた。「教職への関心」、「教材研究」、「教科指導」、「実習態度」は、実習校からの評価の方が学生自己評価よりも高かった。特に、学生自己評価の方が高かった項目は「生徒との触れ合い」と「自己表現力」であった。この2項目について学生は、自分として努力をしたようであったが、教育現場で常に生徒と接している教員側から見たときには不十分であったと推察される。

しかし、今後教員として勤務していく中で、意識的に行動することを通して改善されていく項目であると考えられる。そのため教育実習時において重きを置く事項として、職務に対する前向きな姿勢が挙げられるのではないかと考える。

栄養教諭の学生については、6項目すべてについて、実習校からの評価が学生自己評価よりも高かった。「勤務態度」は4.0、「教材研究」は3.9、「事務処理」は3.8、「児童とのふれあい」は3.7で、実習校における学生の取り組み状況は良好であった。

あえて課題として挙げるならば、「教科指導」の項目である。学生自己評価も2.8と低かったことから、どのような所を改善したらよいかを学生から聞き取りして検討していくことが望まれる。

(2) 総合評価について

個人評価表の「総合評価」については、実習校からの評価は全員がB以上の判定であった。A判定が13名(家庭・美・音5名、栄養教諭8名)、B判定が10名(家庭・美・音9名、栄養教諭1名)であった。

このことから本学の実習生は、実習校から高評価を得ているといえるが、各項目での評価や所見(自由記述)を考慮すると、実習校の評価が過大評価傾向であると推察されたので、今後は総合評価については、評価の段階を現行の4段階から5段階にし、総合評価の観点をわかりやすく併記することで、評価者が評価しやすくなるのではないかと考える。

表2 9項目についての実習校からの評価と自己評価の分布と平均値 (3教科・n=14)

評価項目 評価区分	生徒との 触れあい		教職への 関心		自 己 表現力		教材研究		教科指導 の技術		学級経営・ 生徒指導		事務能力		実習態度		総合評価	
	学校	自己	学校	自己	学校	自己	学校	自己	学校	自己	学校	自己	学校	自己	学校	自己	学校	自己
A	3	6	5	3	2	6	3	3	4	2	4	5	9	9	10	9	5	2
B	8	5	9	7	12	7	11	9	10	9	9	7	5	4	4	5	9	10
C	3	3	0	4	0	1	0	1	0	3	1	2	0	1	0	0	0	2
D	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均値	3.1	3.2	3.4	2.9	3.1	3.4	3.2	3	3.3	2.9	3.2	3.2	3.6	3.6	3.7	3.6	3.4	3

※評価が合致しているところをグレーで色付け

教育実習における評価票の検討

表3 7項目についての実習校からの評価と自己評価の分布と平均値 (栄養教諭・n=9)

評価項目 評価区分	勤務態度		児童・生徒との 触れ合い		教材研究		教科指導		食に関する 指導		事務処理		総合評価	
	学校	自己	学校	自己	学校	自己	学校	自己	学校	自己	学校	自己	学校	自己
A	9	6	6	2	8	4	3	0	3	5	7	5	8	0
B	0	3	3	6	1	3	6	8	6	3	2	2	1	8
C	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	2	0	1
D	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
平均値	4	3.7	3.7	3.1	3.9	3.2	3.4	2.8	3.6	3.3	3.8	3.3	3.9	2.9

表4 「自己表現力」についての評価

3教科		
自己表現力・4段階評価		
学校評価・自己評価	人数	
一致	4・4	0
	3・3	5
学校>自己	4・3	2
	3・2	1
学校<自己	3・4	6

※自己評価の方が高いところをグレーで色付け

表5 「総合評価」についての結果

3教科		栄養教諭	
総合評価・4段階		総合評価・4段階	
学校・自己	人数	学校・自己	人数
4・4	2	4・4	0
3・3	7	3・3	1
4・3	3	4・3	7
3・2	2	4・2	1

※評価が一致しているところをグレーで色付け

(3) 今後の課題について

3教科(家庭・美・音)および栄養教諭とも「児童・生徒との触れ合い」について、取り組みとしては熱心であったが、実際には不足していたと推察された。このことは、今後の課題として指導すべき事項であるが、どのような方法で「触れ合う力」や「コミュニケーション能力」をつけるかが重要であり、教授法のさらなる工夫が求められている。

(4) 各評価項目および総合所見(自由記述)欄について

実習校からの記述と学生の記述については、その内容が多岐にわたっているため、本稿においては、3教科は「自己表現力」について、栄養教諭については「総合所見」について事例を挙げながら、考察していく。

教育実習における評価票の検討

表6 家庭・美・音「自己表現力」についての自由記述例とコメントの視点

自己表現力					
自分の考え方や意志を、ことば・文字・その他の表現手段でどれだけ明瞭にわかりやすく表現しようとしたか。					
	A (家庭科)	B (美術)	C (音楽)	D (家庭科)	E (音楽)
実習校からのコメント	生徒へ指示する際に生徒が答えやすいような言葉を用いて発問していた。	指導案や実習録以外にも普段の話し合いの中で自分の考えを積極的に伝えていた。	自己紹介や中学時代の話、また、短学活での「先生から」の場面では、要点を押さえて話をすることができた。	考えていることや思いを遠慮せずにもっと伝えていただけたとよかったです。	中・高生時に部活のリーダーとして培った指示力、人前での表現力が生かされていた。
自己評価のコメント	生活の記録等で相談してくれる生徒等一人一人に対して一つひとつの言葉を大切に伝えて伝えようと努めた。	参考作品を作ることで具体的にできた。	表現しようと努力はしたが、中々うまくいかなかった。	意志表示をする為、担当の先生と積極的に接し、アドバイスをいただいた。	日誌は端的にわかりやすく、まんべんなく書けた。
コメントの視点	生徒とのかかわりにおける自己表現力についてコメントしていた。	生徒との関わりにおける自己表現力についてコメントしていた。	生徒との関わりにおける自己表現力についてコメントしていた。	指導教員との関わりにおける自己表現力について、コメントしていた。	指導教員は生徒との関わり視点でコメントし、学生は実習日誌への記入の視点でコメントしていた。

表7 栄養教諭「総合所見」についての自由記述例とコメントの視点

総合所見			
教師としての資質の評価を含む			
	A	B	C
実習校からのコメント	事前に食習慣に関するアンケートや指導案を作成してくるなど、意欲的に実習に臨もうとしている姿勢が感じられた。教材研究は時間の許す限り熱心に行い、授業後は生徒用のプリントにコメントを書くなど熱心であった。研究授業の編成を謙虚に受け止め、今後に活かしていこうとする思いが感じられた。以上のことから教師としての資質である誠実さと向上心、行動力が感じられた。今後も目標に向かい努力して欲しいと思う。	自身が行う授業の指導案について、実習前に届けて事前指導を希望する時、実習に取り組む真剣さが伝わりました。また、食の授業で提示する自作資料も分かりやすく、準備も整っており、児童が生活習慣を予防する食欲を高めていたので、目標を達成していたと思います。実習を通じて、児童の目線に立ち、個に応じた対応ができていたことから、栄養の指導や管理を行う栄養教諭の資質は十分に備わっていると考えます。	真面目な態度で実習に取り組んでいました。子どもたちと積極的に触れ合おうとしていました。指導案をはじめ、授業づくりに苦労していたようですが、いろいろな先生方のアドバイス受けるという貴重な経験をこれからは活かす資質があります。
自己評価のコメント	まだ、人の前に立って話す力が足りなと思いました。クラス全体を見渡して、グループワークの時も含めて、話すときは全員が耳を傾けて聞かせるような指示の仕方が必要だと思いました。そして、もっと食の指導力(知識)を身につけなければいけないと思います。	自分から動く積極的な姿勢を身につけたい。また、児童・生徒のよりよい学校生活のために真摯に向き合う姿勢を忘れないようにしたい。さまざまな諸問題について自分なりの考えをもって取り組む。	児童と積極的に接することができなかったため、クラスの実態を把握できなかった。そのため自ら児童と関わることのできるようコミュニケーション能力を養いたい。
コメントの視点	実習校…実習への取り組み、教材研究、児童との触れ合いを中心に述べられていた。 学生…授業の進め方、食の指導力(知能)の大切さについて述べていた。	実習校…実習への取り組み、教材研究、児童との触れ合いを中心に述べられていた。 学生…児童との触れ合い、教師としての姿勢について述べられていた。	実習校…実習への取り組み、子どもたちとの触れ合い、教科指導(指導案)を中心に述べられていた。 学生…児童との触れ合い、コミュニケーション能力について述べられていた。

家庭・音・美の「自己表現力」については、生徒との関わりの視点からのコメントと指導教員との関わりの視点からのコメントが見られた。今後は、評価の視点に「生徒や教員との関わりにおいて」などの前置きがあると、よりの確なコメント記載につながると考える。

栄養教諭の「総合所見」の実習校からのコメントは、「実習への取り組み姿勢や態度」、「教材研究」、「児童の触れ合い」を中心に、教員としての資質について、限られたスペースの中で的確に述べられていた。また、記載のスペースも適量であったと推察する。

教育実習後、学生に自分の取り組みを100点満点で採点してもらったところ、最高は90点、最小は60点、平均は72.6点であった(表8)。このことから、本学の学生は、自分を厳しく見つめ、謙虚な姿勢、真摯な気持ちで教育実習に臨んだといえる。

しかし、過小評価の傾向が見られたので、不足している所だけを指摘するのではなく、「実習校からの良い評価」や「実習巡回指導者からの良い評価」を的確に伝え、効果的な事後指導、教職実践演習を行うことが学生の教員としての資質・能力向上に役立つと考える。特に学生の「自己肯定感」や「達成感」を高めて自信を持たせ、その上で不足している資質や能力の更なる向上を目指すことが課題であるといえる。

表8 自己採点の点数分布

自己採点(100点満点)	3教科(n=14)	栄養教諭(n=9)
95～100	0	0
90～94	1	0
85～89	2	0
80～84	0	4
75～79	2	1
70～74	4	3
65～69	2	0
60～64	2	0
59以下	0	1
平均値	72.6	71.7
最大値	90	80
最小値	60	40
中央値	70	75

## 2. 本学の個人評価表と行政機関や他大学の教育実習に関する評価票との比較

本学の個人評価表をよりよく改訂するにあたり、東京都教育委員会、滋賀県教育委員会、愛知県内連携5大学の書式を図2～図4に、比較した結果を表9に示した。

### (1) 東京都教育委員会

東京都教育委員会(図2)は、小学校の教育実習生を対象として「教育実習成績評価票」と

いう名称で3つの領域9項目について統一形式を使用していた。

3つの領域は、「教師の在り方」、「実践的な指導力」、「学級運営」であった。9項目については、1項目につき2つの評価の観点の詳細に書かれていた。9項目の評価および総合判定は5段階で行い、5（非常に優れた資質・能力を有している）・4（優れた資質・能力を有している）・3（資質・能力を有している）・2（資質・能力が不足している）・1（教員としての資質・能力がない）としており、教員としての資質・能力の判断を評価者に課している。

つまり、教職への適性に対する評価がされていると考えられる。所見は、校長のみ記載することになっており、3行のスペースであった。東京都では教育実習生を年2回受け入れている学校もあり、指導教員への負担を軽減した様式となっていると推察された。

## （2）滋賀県教育委員会

滋賀県で使用されている統一書式（図3）は、「教育実習評価表」という名称で、小・中・高・特別支援学校、養護教諭、栄養教諭の専修、一種、二種免許状を取得予定の者に適用されていた。

東京都と同様、3領域9項目で構成され、9項目の評価の主な着眼点が示してあった。3つの領域は、「学習指導」、「生徒指導」、「実習状況」であった。9項目および総合評価は4段階で行い、A（優）、B（良）、C（可）、D（不可）としていた。

総合所見欄に書かれている「特筆すべき事項および評価されていない実習生の諸資質などがあれば記入すること」から推察すると、滋賀県におけるA～Dの評価は、教員としての資質を判断しているといえる。この所見は、記載者の指定はなく、7行分のスペースであった。

## （3）愛知県内連携5大学

愛知県内連携5大学の書式（図4）は、「教育実習評価票」という名称で、愛知教育大学、愛知県立大学、桜花学園大学、名古屋学芸大学、名城大学で共通使用されている。

評価項目は、東京都、滋賀県と同じ3領域であったが、項目の名称は、「生徒指導」、「学習指導」、「学習態度」であり、滋賀県の様式と類似していた。評価はA～Dの4段階で、Bを標準、Dを不合格としていた。3つの項目ごとに主な観点が簡潔に記載されていた。

総合評価についてもA～Dの4段階評価としていた。特記事項欄には、評価項目その他について特に記すことがあれば記入するようになっていて、記載者の指定はされていない。

教育実習における評価票の検討

〇〇大学 教育実習成績評価票 (例)

平成 年 月 日

フリガナ 実習生名		学部	学科	
			専攻	
		学号番号 ( )		
実習期間	出席すべき日数	出勤日数	欠席日数(理由)	遅刻・早退
平成 年 月 日 から 平成 年 月 日 まで	日	日	病欠 日 ( ) 事故欠 日 ( ) その他 日 ( )	遅刻 回 早退 回

1 評 定

各評価項目並びに総合評定について、いずれかの評語を記入してください。  
 (評語) 5 (非常に優れた資質・能力を有している) 4 (優れた資質・能力を有している) 3 (資質・能力を有している)  
 2 (資質・能力が不足している) 1 (教員としての資質・能力がない)

評価項目	評価の観点	評 定
【領域①】 教師の在り方	(1) 使命感と豊かな人間性と教師として必要な教養	①子供一人一人の実態や状況を把握し、子供のよさや可能性を引き出し伸ばすために、子供と積極的にかかわっている。 ②小学校教師に求められる常識を身に付けている。
	(2) コミュニケーション能力と対人関係力	①管理職をはじめとする、教職員とコミュニケーションを積極的に図ることができる能力を身に付けている。 ②児童と適切な言葉遣いや話しやすい態度で接することができる。
	(3) 学校組織の一員としての役割と職務の厳正	①学級担任の職務内容や校務分掌について理解し、管理職等に必要な報告、連絡等を適切に行うことができる。 ②法令を遵守する態度を身に付けている。
【領域②】 実践的な指導力	(4) 学習指導要領の理解と授業づくり	①学習指導要領の各教科等の目標や内容を踏まえて学習指導案を工夫している。 ②授業準備のための教材研究・教材刷新ができ、児童の実態に即した授業づくりを実践している。
	(5) 単元指導計画の作成と指導方法・指導技術	①単元指導計画に基づき、実践する授業の指導目標とや指導内容、評価標準、指導観等を踏まえた学習指導案を作成することができる。 ②授業の場において児童の実態と教科の特性に応じた指導方法や指導技術(発問、板書、説明等)を身に付けている。
	(6) 児童の学習状況の把握と授業改善	①学習指導における評価の意義について理解し、授業中の児童の学習状況の把握や個別指導等を工夫することができる。 ②授業研究後に授業を振り返り、課題を整理し授業改善を進んで実践している。
	(7) 特別支援教育とキャリア教育	①通常の学級に在籍する、支援を要する児童へ積極的にかわり、指導している。 ②児童に将来を考えさせたり、自己の可能性を見出させるために授業を工夫したり児童に積極的にかかわっている。
【領域③】 学級担任	(8) 学級経営と集団の把握・生活指導	①学級の規範づくりや教室の環境構成、清掃指導、給食指導等を積極的に行っている。 ②状況に応じて適時に的確な判断を行い、教師として毅然とした態度をとり、適切にほめたり、叱ったりすることができる。
	(9) 児童理解と教育相談・保護者との連携	①カウンセリングマインドや教育相談の基本的な技法を踏まえて児童に接している。 ②保護者や地域住民等と連携して、学校の教育力を高めていることを理解している。
総 合 評 定		

2 校長所見

教育実習全体をとおしての所見を具体的に御記入ください。  
 (観点別または総合で「2」以下の評定を行った場合には、必ずその理由を記入してください。)

学 校 名		印	指導教員名		印
学 校 長 名					

図2 東京都の教育実習成績評価票(東京都教育委員会, 2011)

平成 年度  
教育実習評価表

(学習県統一様式)

実習校	学校名	
	所在地	
	校長名	印
	教育実習担当教諭氏名	印
	学級担任教諭氏名	印
	教科担当教諭氏名	印
	大 学 名	
	学部・学科名	
	(専攻) 次	
	氏名	
	実習教科等	
実習期間	平成 年 (20 年) 月 日 ( 曜)	
	～ 平成 年 (20 年) 月 日 ( 曜)	
出席状況	出席すべき日数	日 間
	出席した日数	遅 刻
	欠 席 日 数	早 退
	病欠	
	事故欠	
	その他	

実 習 評 価

評価項目	主な着眼点	評価
1.学習指導	11.基礎学力 ●言語が明確であるか ●基礎知識を身に付けているか ●字が正しく書けるか ●教材研究の計画性、創意工夫がなされているかなど。 12.教材研究 ●発問等によって生徒の関心をひきつけているか。 ●放書は明確に行われているかなど。 13.指導技術	A. B. C. D. A. B. C. D. A. B. C. D.
2.生徒指導	21.生徒の理解 ●すすんで生徒に接して理解につとめているかなど。 22.教科外指導 ●学級、部活動等の指導を自主的、意図的に行っているかなど。 23.個別・集団指導 ●個別指導、学級・HRなどで集団指導は適切かなど。	A. B. C. D. A. B. C. D. A. B. C. D.
3.実習状況	31.積極性・熱意 ●主体的な取り組みがみられるかなど。 32.事務・実務の処理 ●学級経営上の事務は効率的に行っているかなど。 33.指導を受ける状況 ●指導教諭の指示、指導を積極的に受け止め、実践しているかなど。	A. B. C. D. A. B. C. D. A. B. C. D.
総合所見	上記評価項目 1.～ 3.において、なお特記すべき事項および評価されていない実習生の諸算質などがあれば記入すること。	
総合評価	A. B. C. D.	

※備考：A (優)、B (良)、C (可)、D (不可)、評価は当該番号に○を付けること。

図 3 滋賀県の教育実習評価表 (滋賀県教育課編, 2002)

## 平成 25 年度 教育実習評価票

愛知県

大 学 名	学 籍 番 号 ・ 課 程 ( 専 攻 )				実 習 生 氏 名	
愛知教育大学						
実 習 校 名	配 属 学 年	実 習 教 科 ( 注 1 )		実 習 期 間		
				月 日 から 月 日 まで		
評 価 項 目	評 価 ( 注 2 )				主 な 観 点	
	A	B	C	D		
生 徒 指 導					・ 児 童 ・ 生 徒 の 観 察 ・ 理 解	
					・ 指 導 能 力	
					・ 指 導 態 度	
学 習 指 導					・ 教 科 等 に 関 す る 能 力	
					・ 指 導 能 力	
					・ 指 導 態 度	
実 習 態 度					・ 実 習 生 と し て の 自 覚	
					・ 教 職 に 対 す る 熱 意	
					・ 実 務 能 力	
					・ 教 育 実 習 記 録 等	
出 欠 席	出 席 す べ き 日 数 日				欠 席 の 理 由	
	出 席 日 数 日					
	欠 席 日 数 日					
	遅 刻 回		早 退 回			
総 合 評 価 ( 注 2 )	A	B	C	D	特 記 事 項 ( 注 3 )	
指 導 教 諭 氏 名	印					
	印					

平成 年 月 日

学 校 名 \_\_\_\_\_

校 長 氏 名 \_\_\_\_\_

印

- 注 1 実習教科欄は、中学校、高等学校及び特別支援学校の中学部・高等部のみ記入する。  
 注 2 評価及び総合評価は、それぞれBを標準、Dを不合格とし、該当欄に○印をつける。  
 注 3 特記事項は、評価項目その他について特に記すべきことがあれば記入する。

図 4 愛知県内5大学教育実習評価票(宮下, 2015)

教育実習における評価票の検討

表9 教育実習評価票の比較

	本学 (家・美・音)	本学 (栄養教諭)	東京都 教育委員会	滋賀県 教育委員会	愛知県内 連携5大学
対象	中・高一種, 中二種	栄養教諭	公立小学校で教 育実習を行う者	小・中・高 特別支援・養護 ・栄養教諭	小・中・高 特別支援
開始	不明	不明	平成23年度～	平成20年度～	平成25年度～
サイズと 枚数	A 4 2枚	A 4 2枚	A 4 1枚	A 4 2枚	A 4 1枚
評価 領域数 項目数	3領域 8項目 4段階評価	3領域 6項目 4段階評価	3領域 9項目 5段階評価	3領域 9項目 4段階評価	3領域 3項目 4段階評価
総合評価  評価 の尺度	4段階評価 A=教育実習生 として優れている。 B=普通である。 C=劣っている。 D=教職に適し ていない。	4段階評価 A(優) B(良) C(可) D(不可)	5段階評価 5・4・3 (教員としての 資質を有してい る) 2・1 (教員としての 資質がない)	4段階評価 A(優) B(良) C(可) D(不可)	4段階評価 A・B(標準) C・D(不合格)
所見	評価項目ごとお よび総合評価の 両方に記入欄を 設けており、コ メントを記入す る欄が多い。	総合評価の下に 記入欄を設けて いる。	校長の所見を記 入するスペース として3行分 とっている。	総合所見とし て、記入する。 記入者の指定は なく、7行分の スペースをとっ ている。	特記事項とし て、記入する 空白のスペース がとってある。 記入者の指定は ない。
その他	教壇実習の回数 を記載する欄が ある	教壇授業の回数 を記載する欄が ある	授業の回数を記 載する欄はない	授業の回数を記 載する欄はない	授業の回数を 記載する欄はな い

矢嶋(2012)によると、東京学芸大学附属学校では、平成19年度から「教育実習成績報告書」を策定し使用しているが、この報告書の評価項目は東京都の評価項目と類似しているが、東京都の(7)(9)の特別支援教育、キャリア教育および保護者との連携について取り上げていない。その理由は、教育実習の限られた期間の中で、実際に経験する内容全体に占める割合の低さからである。

山口県の教育実習ガイドラインには、実習校として責任のある評価を行うために、大学の教育実習評価票とは別に各学校に評価尺度票の作成を促しており、具体例が掲載されており、4つの領域と10の評価項目からなっていた。評価点については、0点～10点まで細かい達成基準が作成されており、学校が独自の取り組みを通して、山口県の“教員の卵”を育てることに寄与していると推察された。

このように教育委員会や他大学等で使用されている教育実習評価票には「教職観」「学習指導」「生徒指導」の3分野が必ず含まれており、これについては本学の評価表と違いは見られ

ない。ただし、本学の教育実習評価表は分野間のまとまりがなく、追記して入れる評価事項はなくとも、記載順序の変更が必要であろう。

### 3. 今後の郡山女子大学の教育実習評価表に関して提案

「1. 『教育実習個人評価表』 についての実習校からの評価と自己評価の比較」と「2. 本学の個人評価表と行政機関や他大学の教育実習に関する評価票との比較の比較」踏まえて、今後の本学の教育実習評価表に関して提案し、今後の指導上の観点を明確にする。具体的提案内容は、以下の4点である。またその4点を踏まえた教育実習評価表を図5に示す。

1. 家庭科・美術・音楽と栄養教諭は書式を統一使用すること
2. 評価項目については、3領域8項目とするが、評価の観点については、3教科と栄養教諭で一部変えること
3. 総合評価については、現行の4段階評価から5段階評価に変更すること
4. 所見欄については、実習校の負担を考慮して総合所見欄のみとすること

教育実習における評価票の検討

教育実習事項別評価			
<p>事項別評価記入要領</p> <p>下記の評価項目ごとに該当するところに○印をつけてください。</p> <p>評価基準 A：優れている。B：普通である。C：やや劣っている。D：劣っている</p>			
	評価項目	主な着眼点	評価
1	実習態度	礼儀正しく、誠意をもって仕事に従事したか。実習中、指導教諭などの指導・助言に従い、どれだけ自己改善に努めたか。	A B C D
2	教職への関心	職場・地域などの教育問題に積極的な関心を示し、自主的・協力的に教育活動を進めようとしたか。	A B C D
3	教材研究	教材内容について十分な理解をもっているか。教材の選択、作成、利用のしかたは適切であったか。	A B C D
4	教科指導の技術	授業案の立てかた、発問や説明など授業展開の工夫、生徒への対応のしかたは適切であったか。	A B C D
5	学級経営・生徒指導	個々の生徒や学級の実態の把握に努め、生徒や学級の諸活動に参加して、効果的な指導ができたか。	A B C D
6	生徒との触れあい	生徒との相互理解を深めるため、親しく話しあったり、生徒の中にとけこもうとしたか。	A B C D
7	事務能力	学級経営上の事務処理などがうまくできたか、実習記録、その他の書類などを的確に記述し、期限内に提出したか。	A B C D
8	自己表現力	自分の考えや意志を、ことば・文字・その他の表現手段でどれだけ明瞭にわかりやすく表現しようとしたか。	A B C D

図5 教育実習評価表の提案

教育実習における評価票の検討

総合評価			
総合評価記入要領 全体的な評価について該当するところに○印をつけてください。 また、実習生に対する総合所見をご記入ください。なお、評価Dの場合は具体的にご記入くださるようお願いいたします。			
総合所見			
総合評価	S   A   B   C   D	S：大変優れている。 C：劣っている。 A：優れている。      D：教職に適していない。 B：普通である。	
出席状況			
実習期間	自	年	月 日 ( )
	至	年	月 日 ( )
出席すべき日数		日	出席した日数 日
欠席日数	病 気	日	事 故 日      その他 日
遅刻・早退	遅 刻	回	早 退 回
	学校長		ⓐ
	指導教諭		ⓐ

#### 4. まとめにかえて―評価をどう指導に生かすか―

本稿では、①実習校からの教育実習評価と学生による自己評価の一致や差異に着目し検証を試み、②本学の個人評価表と行政機関や他大学の教育実習に関する評価票との比較を行い、今後の教育実習評価票の在り方を検討し、今後の本学の教育実習評価表を提案したところである。

教育実習(現場実習)は、教職課程での学びを深化させる貴重な機会であることは明白であるが、学生一人ひとりが、教師として求められる資質・能力を高めるために、次の3点を今後の検討課題としたい。

1. 「教育実習事後指導」で実習校からの教育実習評価や巡回指導者からのコメントを学生に伝え、自己評価と合致しているかを学生自身に考察させる試みを行いたい。
2. 1をとおして、自己の良いところと不足しているところの振り返りをさせ、明確に言語化し、「教職実践演習」の授業につなげていきたい。
3. 学生が他者(生徒や教師)との関わりにおいて困らないように、自己表現力を高める取り組みを、「教科教育法」および「教育実習事前指導」の授業で試みたい。

#### 注

- 1) 本学から教育実習校に依頼している評価の名称は、「教育実習個人評価表」と「栄養教育実習個人評価表」となっている。
- 2) 平均値は、Aを4点、Bを3点、Cを2点、Dを1点として合計し、人数で割って算出した。

#### 引用文献および参考文献

- 滋賀県教育委員会, 「滋賀県立学校教育実習申込み要項」, 2002.
- 東京都教育委員会, 「教育実習を通して学びましょう」, 2011.
- 東京都教育委員会, 「小学校教諭課程カリキュラムについて」, 2010.
- 宮下治, 「教育実習評価票に関する現状と課題に関する一考察―愛知県内連携5大学と東京都教育委員会の評価票の比較から―」, Bulletin of Aichi Univ. of Education, 64 (Educational Sciences), pp.111-117, 2015.
- 矢嶋昭雄, 「教育実習における指導と評価に関する一考察―東京学芸大学と東京都教育委員会の成績報告書の比較から―」, 東京学芸大学教育実践研究支援センター紀要, 第8集, pp.23-32, 2012.
- 山口県教育委員会, 「教育実習実施に当たってのガイドライン」, pp.67-70, 2013.